

『新年に思う』

理事・北海道支部長
西村 孝治

明けましておめでとうございます。
輝かしい新年を迎え一言ごあいさつ申し上げます。

今年は羊年。干支占いでは「変化への節目の年となる可能性も」とのご託宣があるようです。果たして、何か新しい転換への兆し、あるいは動きが始まることになるのでしょうか。

歴史は繰り返すと言われます。松の内のお屠蘇気分のもと、ゆっくり過去の変遷をヒモ解き、少しでもいい、小さくてもいい。前向きな良い方向性を見出し、今年1年間の励みの一つに出来ればと思っております。

北海道では、昔から羊の放牧が盛んに行われ縁は浅からぬ。また、今でこそ全国版となっているジンギスカンを食文化としてきました。きっと、明るい材料があるでしょう。

アベノミクスの地方再生策のバックアップによる早急、かつ的確な効果とともに“乞う期待”といったところ大です。

今年度の北海道経済は、個人消費や設備投資、観光関連の持ち直しが鮮明となり、住宅投資も回復するとの予測から実質1.0%前後の成長が見込まれています。

公共投資は、ほぼ横ばいとなりそうですが、建設関連については、札幌市内で計画中のそうせいさんく、北8西1地区や南2西3南西地区、JR苗穂駅周辺など大型再開発が本格化します。また、北海道新幹線開業に伴う道南の地域開発や北海道電力石狩LNG発電所のほか、全道各地で複合商業・農業関連施設、病院などの物件が潤沢にあります。

北海道支部における今年の運営方針としては、ZSK本部が進める「非合理的な商慣習の是正と適正化」「加工技術の向上促進」「組合組織の活性化」の三本柱に沿った動きを積極的に推進し、業界の地位向上を図っていく所存です。

そして、最大の使命であります「需給に見合った受注販売活動により安定、かつタイムリーな高品質製品の提供」を基本として、地域社会への貢献を果たしてまいります。

同時に、次世代を担う若い人達が誇りと展望を見出すことが出来る将来性ある業界形成を目指したいと考えております。

各社それぞれの目標については、あくまで「量から質」への転換が最重要課題。品質・納期はもとより、再生産に必要な適正加工賃の確保をポイントに掲げ、より一層の「付加価値向上」「非価格競争の強化」に鋭意取り組んで行くことが必要であります。

“蒔かぬ種は生えぬ”。これら施策に対し、支部会員が結束して不退転の覚悟で邁進するつもりです。

今年も、関係各位の指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。

皆様にとってよき年となりますよう御祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

(玉造(株)・社長)

『ウイン・ウインの関係を目指して』

理事・東北支部長
林 理明

皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、鉄骨ファブ殿を主要取引先とする当社は、『苦戦！』の一言でした。年初より全国鉄骨需要500万トンの強が見込まれ、東北地区においても仙台市内の再開発や復興関連事業の推進が想定され、まずまずの成果を目論んでおりましたが、人材不足などボトルネックによる再三の工期延期で工程変更や在庫負担を余儀なくされ、図面変更により残材が発生し、その負担や処理を強いられ、また、意思とは裏腹に安価加工賃での受注を回避することが出来ず、など苦戦の毎日でございました。

これらの苦しい状況を打破すべく、営業マンには安値受注回避徹底を指示しつつ、自らも取引先に「ウイン・ウイン」を説いて廻り、また、取引先貢献および受注間口拡大を目的に、「穴開け・開先・ショット」の切板二次加工設備の新規投資を実施し、年末辺りから何とか好転の兆しが見えてまいりました。

今年も全国鉄骨需要は500万トンを超が想定され、東北地区ファブも総じて8月～9月辺りまでの山積みを確認している状況です。

全国厚板シャリング工業組合の前理事長、現理事長が推進されている「建材向け切板製品の取引適正化」「不合理な商慣習是正」にも積極的に取り組み、「利益薄き（なき）繁忙からの脱却」、「適正利潤の確保」に向け、取引先と「ウイン・ウインの関係を構築しつつ、しっかりと受注し、収益確保に努めたいと思います。

さて、話は変わりますが、昨年末より当社も遅ればせながらホームページの制作に着手しており、当社の沿革について整理する機会がありました。当社の節目節目のその時代に自分は何処で何をしていたかと、ついつい振り返りながら作業を進めました。事業スタートの1968年（昭和43年）、私は2歳。恐らく昭和初期あたりに建築されたであろう古い木造平屋建てが数十軒連なる八幡製鉄の社宅で7歳まで暮らしました。道向いの上級者社宅の敷地は一回り大きく、庭に小さな池があったのを記憶しています。また、父に連れられて行った起業祭には当時人気絶頂のドリフターズや森進一がゲスト出演しており、製鉄所からの煙が「七色の煙」として街のシンボルとなり小学校の校歌に歌われていたのを思い出しました。

「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」で高度成長を牽引した高炉メーカーの力、威信が今以上に強大だったのでしょうか。（子供なので全く気付きませんでした）

私は日鐵商事に入社以来25年間鋼材営業に従事し、現在もシャの経営に従事しております。メーカー殿が鉄鉱石と原料炭から厚板を造るのにどれだけ労力を費やしているか理解しているつもりです。鉄鋼流通の末端として、自分たちの立場を主張し、適正な取引、ウイン・ウインの関係を実現すべく今年も頑張っていく所存です。

本年が皆様にとって幸多き年となりますことを祈念して、私の新年のご挨拶とさせていただきます。
(仙台シャリング(株)・社長)

『五年(オリンピック)後を見据えた経営』

副理事長・東京支部長
酒匂 雅信

ZSK 組合員の皆様「新年おめでとうございます」

昨年も組合に対する適切なる御意見、各地域の情報の提供等ありがとうございます。また御自身の会社の経営に関しても何かと気苦労の多かった年ではなかったかと思いますが、今年も引き続きよろしく願いいたします。

昨年の正月はおだやかな晴天でしたが、今年の元日は雪で、今年一年間の風雲急を告げるかのようにでしたが、今年は何んと言っても「ABENOMICS 成長戦略第三の矢」が発動され、我々民間企業にとっては、今までにない経営環境が整えられる年でもあります。

造船業界をはじめ鉄骨橋梁業界も、建産機も特装自動車も重電機業界も現状のマックスの生産能力を達成し、昨年並かそれ以上の生産量を達成すると思います。しかも3年先いや4年先までの受注は確保されると思います。

しかし我々の顧客が、我々に求めているのは量ではなく、「納期」や「品質」「コスト」であることは今までと変わりはありません。今年はさらに人手不足をどこまで助けてもらえるかも要求されると思います。また会員各社のユーザーの現場は昨年にも増して納期が不安定化する恐れがあります。

人手不足は設計、製造、現場、輸送だけでなく、あらゆる分野に広がっております。今年一年はまだ調整が必要な期間であると思います。2016年からはもう調整の時期は過ぎて、待ったなしに進めなければならない仕事が山程あります。

オリンピックも、リニアモーターカーも、高速自動車道も橋梁も高層ビルも東北初め全国の災害復興工事もすべて待ったなしの仕事です。しかももう動き初めました。

皆の目に見えるようになってからでは遅いのです。

昨年の年頭所感の題目は「六年目を見据えた経営」でしたが、今年は「五年後を見据えた経営」であり、「会員各社の取り組むべき課題の見える化」だと考えております。

今年は目に見えない宝の山を、ZSKの組合活動の中で見つけていこうではないですか。今年もZSKは会員各社の積極的な改善活動を応援いたします。

(京浜産業(株)・会長)

『公正取引の定着化、経営健全化で 後輩たちの明日につなぐ』

理事・総務委員長

大住 昌弘

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年より、当組合の総務委員長をつとめさせていただいております大住です。

組合員各位におかれまして、日頃より当組合活動にご理解ご協力を賜り、御礼申し上げます。本年も皆様方の積極的なご参画により、当業界が抱えます諸課題の解決に向け邁進してまいりたい、よろしくお願い申し上げます。

皆様にとりまして、2014年はいかなる年でありましたでしょうか？

一昨年の年初は政権交代後の期待感をもってはじまりましたが、政府や財政当局が笛を吹く割には長年のデフレマインドが解放されず、ただほのかな上昇感を実感し始めることができました。昨年は、アベノミクス効果が分野や企業規模、地域間のバラつきはあるものの目に見えた効果が出始め、設備投資など前向きな動きも表面化し始めました。ただ、影響軽微との大方の当初予想に反し、消費税増税の影響が以外に尾を引き、衆議院選挙の大義となり、結果として安倍政権安定多数体制を迫認することになりました。その間、異次元の金融緩和第2弾により、急速に円高が進みました。それまでのエネルギー・物流諸コストの上昇もあり、結局、あまりパツとしなかった内需向けがベースの企業は、多くがなかなか利益を享受することができなかったのではないのでしょうか？

2015年はいかなる年になりますでしょうか？

大方の経済見通しでは、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催も控え日本経済は緩やかな回復基調、とのようです。鉄鋼関連顧客とりわけ建設需要に携わる顧客の大勢からは、今年前半はやや調整気味なるも後半から復調し来年下半年以降は能力不足も見込まれるほど高水準に推移するとの声が聞かれます。皆様の大勢は、我々業界の目線で見ると、自民党への政権交代後、期待が大きかった割には急速な景気回復はなく、長年の構造調整の影響でいたる分野で能力制約が出てきて、そんなに期待するほども量は出ないが当面順調な経済活動が続けられるのではないか？販売量は少なくとも昨年並みは確保できる、と見ておられるのではないのでしょうか？

では、収益面では、昨年より向上が見込まれるのでしょうか？昨年後半以降大幅下落の原油や鉄鉱石の反転懸念、行き過ぎた円安の動向、緊迫が続くイスラム関連情勢や東アジアの地政学リスクの高まりなど、今や世界経済のリード役が剥落しつつある日本経済は世界情勢の変化に敏感で、コスト構造で大きく影響を受けるようになりました。日本経済が変容をきたし需要業界が紐を締め直すと、これまでの経済の上層構造からの利益先取りの繰り返しです。我々が自助努力を怠れば、これまで打破できなかった負け組のままとなります。

長年の厳しい経営環境のなかで取引のしわ寄せが繰り返されてきました。一方、やっと足元回復基調に転じ、今後数年間我が国活動の1つの軸がオリンピック・パラリンピックで前向きな回転が続くとなると、2015年、今年こそ、これまで業界として取り組んできた不公正な取引関

係の是正を個社単位で確立し、FAB業界ともども長年の商習慣の悪弊をただし、将来に夢を託せる規律ある業界に変容させていかなければならない年であります。

建設・設備・輸送機器関連など、我が国の基幹産業を支えるわが厚板シヤーリング業界も、人手不足問題を抱えております。高齢化や低賃金等構造問題がその根幹にあり、人材の確保、熟練技能者の育成、等、充実させていかなければ、我が国の発展は支えられない、との自負のもと、今年あらためて経営健全化元年として、その重要な項目である取引慣行の適正化を実現したいものと考えております。

こうした思いを同じくする我が業界の仲間が1社でも多く新たに仲間に入ってください、健全な業界を後輩たちにつないでいきたいものです。

(株)富士鉄鋼センター・社長

『昨年良かったの？今年はどうなるの？』

理事・新潟支部長
真柄 修

明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、昨年を振り返ってみたいと思います。

日本経済は、1-3月期は消費税増税前の駆け込み需要等々に支えられ、堅調に推移しました。物不足、トラック不足等も話題になるほど、消費が活発でした。

増税後の4月以降も反動減は一時的なもので、早期に回復という見方が政府及びエコノミストの方の大勢でした。しかしながら、その楽観的予想はハズレてしまいました。

GDPの4-6月期のマイナスは、覚悟しておりましたが、7-9月期はさらにマイナス幅が拡大してしまいました。10-12月期はこれまた大半の専門家が、持ち直すと予想しておりますがどうでしょうか？

当地の経済状況は、4-6月期より7-9月期が悪化しており、10-12月期はさらに悪化しているという実感のまま年を越してしまいました。当地の鋼材を使用してくれる主力企業のほとんどは内需型であり、円安効果を享受できていません。更に株の上昇メリットについても蚊帳の外です。

アベノミクスによる好調な輸出型産業と不振の内需型産業。活発な都市圏立地企業と低迷する地方立地企業。大企業と中小企業との格差が昨年は一層拡大したように思われます。

当地の企業は、一部に業績好調な会社もありますが、大半の会社は業績低迷しているのが実情のようです。

当社の昨年は、加工量は、前年とほぼ同量でしたが、収益については大幅に悪化しました。

特に、4月以降は苦戦しました。年が明けても改善には至っておりません。

その最大要因は、仕事量はあるが適正加工賃が確保できていない事にあります。小ロット、短納期、二次加工対応、そして運賃上昇等のコストアップ分を適切に価格転嫁できませんでした。忙しかったが締めてみたら駄目だったという事です。

昨年を反省し、今年こそは「適正加工賃の確保」を最優先に取り組み、厚板溶断事業を健全化したいと考えています。

仕事量がまだあると思われる今年が正念場だと思います。[自立][自助][感謝]の強い気持ちで乗り切りたいものです。

正月の[初夢]に終わらぬように、心して掛かりたいと思っております。

(新潟スチール(株)・社長)

『新春に　まずは反省から』

副理事長・東海支部長
高木 唯夫

みな様　明けましておめでとうございます

昨年の東海地区は、名古屋駅前の3大建築案件の工期遅れはあったものの、建築関連はおおむね忙しく、自動車・工作機械等製造業もまずまず、デパートも高級品を中心にまずまずと、決して悪くない1年だったと思います。ただ、個人的には地元の事を如何に理解していなかったか思い知らされた1年でした。まずはその反省から。

一つ目は、青色LEDによるノーベル物理学賞の件。同時受賞された中村教授は企業における特許権の問題で知っていましたが、地元の赤崎・天野教授のことは全く存知あげませんでした。名古屋市役所の近くに世界初のLED信号機が以前からあることは知っていましたが、何故名古屋なのか知りませんでした。失礼いたしました。

二つ目は、御嶽山。噴火して初めて3千メートル級の山だと知りました。当地区においては、御嶽山　というより　おんたけさん　です。ロープウェーを使えば簡単に山頂近くまで行け、木曾でゴルフレパットを外し頭を上げればそこに　おんたけさん　があるといった身近な山でした。まさか、あのような恐ろしい大きな山だとは思ってもみませんでした。

三つ目は、古橋源六郎暉兒という偉人です。昨年9月に、安倍総理が所信表明演説の中で紹介された江戸～明治時代の豊田市で郷土の偉人と評される人物です。自分の家を再興するとともに、村の特色を生かし産業を興し発展させたとのこと。総理は当然地方創生のなかで話されましたが、地元の小生が初めて聞いた名前でした。

反省ばかりしていても新春の明るさに相応しくありませんので、最後の反省の件　地方創生で明るくしたいと思います。昨年、リニア新幹線が正式決定され名古屋～東京が40分でつながることになりました。これで悲願の名古屋遷都の実現です。まあ、そこまでいかなくとも首都の大きな代替・補完機能を名古屋が持つということです。これこそが当地区の最大の創生です。ただ、喜んでばかりはいられません。リニアが巨大なストローとなり、東京の凄まじい吸引力で東海経済を根こそぎ飲み込んでしまう恐れもあるのです。

今、愛知県、名古屋ではリニア完成後の名古屋駅から主な拠点へのアクセスをどうするか活発な議論がなされています。東京に負けない東海ならではの経済圏を確立するためまずはインフラから、そして遷都・・・・・・・・。

みな様、本年もどうぞ宜しく願いいたします。

(三和鐵鋼(株)・社長)

『還暦に思う』

副理事長・大阪支部長
浅野 博之

明けましておめでとうございます。

家族お揃いで、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

唐突感のあった年末の総選挙では、自民党が想定以上の大勝を収め、アベノミクスが信任された。とはいえ、実体経済の回復は株価の回復に比べて力強さに欠け、期待した程には回復が進まないことに焦燥感が募る。岩盤規制や痛みを伴う改革を極端に嫌う国民性や社会制度などが障害となり、思う様には回復が進まないが、しかし、「この道しかない」のも事実であり、辛抱強く、内なる改革を進めながら、外なる景気回復を待ちたい。

私は今年2月に還暦を迎える。還暦は言うまでもなく、十干と十二支の組み合わせでできる60通りの干支が一回りして生年に還ることである。因みに今年の干支は「乙未（いつみ；きのと・ひつじ）」である。「乙未」は、「外からの障害は強く、内にも茂る枝葉が暗さを招く。外にも内にも、良く耐えて屈することなく、物事を明らかにする年」だそうである。まさに今年を言い当てるかの様で驚かすにはおれない。

私が生まれた昭和30年は、「もはや戦後ではない」と言われた神武景気が始まり、高度経済成長の先駆けとなった年に当る。その後、大分の片田舎で育った私のまわりでも、馬も見かけた未舗装の道が舗装されて2輪車・3輪車が増え、継当てのある服から小奇麗な服に代わり、バラックの様な家が建て直され、白黒テレビや洗濯機が眩しかったことが記憶に残る。今年がその様な景気回復の先駆けの年となってほしい。

大阪にとって今年はまだ、阪神淡路大震災から20年、朝ドラ「ごちそうさん」にも描かれた大阪大空襲から70年、そして大阪夏の陣から400年の節目の年に当る。いずれも壊滅的な被害を受けた年であると共に、そこから力強く再生が始まった年でもある。大阪の景気回復は他の地域に比べて出遅れ感があるが、今年こそは、力強い地域経済再生の年としたいと念じる。

還暦を迎えても何の実感も感慨も湧かない。30年前の父の還暦では既に独立していた兄弟が集まり、赤いベストで祝ったことを思い出す。公務員であった父は直前に退職し、悠々自適の身であった。今や60歳でリタイアできることは希で、寧ろ働き続けることで積極的に社会参加する様な意識改革が進んだ。明治・大正までの日本人の平均寿命は50歳に遠く及ばない。平均寿命が驚異的に伸びたのは戦後の僅かこの70年のことだ。江戸から大正にかけての平均寿命は40歳前後に過ぎない。この様な時代と、平均寿命が80歳を超える現代とでは還暦の価値は変わって当たり前だ。かつての還暦は今の90歳、古稀は100歳の感覚ではなからうか。

サミュエル・ウルマンの『Youth (青春)』にはこうある。「Youth is not a time of life; it is a state of mind. Nobody grows old merely by a number of years. We grow old by deserting our ideals. (若さとは、年齢ではなく、心のあり様だ。人は年を重ねることで老いるのではなく、理想を失うことで老いるのだ)」。これは、個人も会社も同じだ。好奇心と情熱を持ち、理想に向けて挑戦し続ける、そんな若々しい個人と会社でありたいと、還暦を機に改めて思う。

本年が皆様にとりまして素晴らしい1年となりますことを祈念し、新年の挨拶と致します。

(日鉄住金神鋼シャーリング㈱・社長)

『2015年 新春雑感』

理事・中国支部長
浅利 重法

あけましておめでとうございます

2015年は終戦後70年の節目、我が国はグローバルな世界に向けてこれまでの来し方を踏まえた将来展望を発信しなければなりません。自分は戦後8年目に福岡県筑豊の炭住で生まれ貧しくともおおらかに育った幼少期の自由な空気をごく当たり前とと思っていましたが昨今の子供の貧困化、格差問題は深刻であり政権による適切なソリューションを切望します。

さて中国支部としてご当地の話題に触れますとまずはスポーツ、一昨年までのサンフレッチェ2連覇に続き、去年はカープが大躍進、カープ女子の出現もありおおいにわれわれを勇気づけてくれました。今年は黒田投手が19億円年俸をけてNYヤンキースから復帰しさらにカープ旋風が吹き荒れると思います。もひとつはNHK朝ドラ「竹鶴のマッサン」、ウキスキーづくりをめぐる鴨居の大将（堤真一）とマッサンとの対立で「経営者は従業員とその家族を食わしたらにゃあかんのや！売れるもんをつくらんかい！」これはおもわず心に響きました。カープ女子、男黒田、経営者の心意気とマネジメントの要諦がずらりです。

飲物ということではお屠蘇がわりに知人が届けてくれた超高級茶ロイヤルブルーティーを嗜みました。JAL国際線ファーストクラスで750mlボトル4000円、最高級品は20,000円！確かに美味しいがお茶はお茶。なぜこれが売れるか？フランスでは飲酒率がすでに50%以下であり高級料理に高級ワインを楽しむ同僚に割り勘負けしたくない富裕層下戸のノンアルコール高級飲料のニーズにミートしたとのこと。これもターゲットを絞った売り方の成功例です。しかし富裕層に的を絞るといのがややしっくりこない。富裕層がいくら消費しても知れているし、癪に障らないでもない。いまだ入手できぬトマ・ピケテイ氏のベストセラー「21世紀の資本」については毎日新聞の社説で「資本主義の下では資産を持つ人がますます富み、持たない人々との格差が広がり続ける。富も貧困も世襲されていく」と分析し格差解消に「富裕税」の創設を唱えているが非現実的。まさに論争はこれから、議論に加わろうとありこれに強く同感しますしこの本が容易く入手できないほど読者の裾野が広がっていることにほっとします。

確かに大企業の成長の滴がわれわれ中小企業に滴り落ちてくるなどと楽観はできません。当地で記録的高収益をあげた大手機械メーカーも部品メーカー等への例年のコストダウン要請をいったん取り下げたという程度のようなようです。ただ溶断会社にとって間違いないのは納入先のFABが儲からないと仕事そのものが危うくなるということ。造船2014年問題が解決しても暫くは互いの存続のために苦しさを分かちあいながら耐えていかねばならないということです。個社との取引でこの信頼感さえあればいろんなVA, VEのアイデアもできます。年頭に社員に伝えたいのは「溶断会社社員であると同時に健全な市民として自分の家庭・人生に直接かかわる政治に関心をもち安易に周囲に同調せず自ら判断する習慣を身につけよ。そしてプロの溶断マン、切板営業マンとして過去のやり方に囚われず徹底してコストダウン・顧客満足を追求せよ」。勿論自らにも「従業員と家族を食わさにゃならんぞ」と。

今年1年の皆様のご多幸をお祈りします。

(太陽シャーリング㈱・社長)

『水の如し』

副理事長・九州支部長
清水 豊

皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年4月から九州に赴任し、全国厚板シャリング工業組合の仲間入りをさせて頂きました。

昨年の九州での明るい話題と言えれば何と云っても、福岡ソフトバンクホークスの3年ぶりの日本一優勝でしょう。ヤフオクドームの近くに住んでいることもあり、身近に感じられる楽しい話題でした。来年も工藤公康新監督のもと、松坂大輔投手も加入し、元気な戦いをしてくれることと期待しています。九州支部各社もホークスにあやかって元気な2015年にしたいものです。

然しながら足元、九州域内の需要は今ひとつ盛り上がり欠けており、ファブさんは首都圏案件を受注することで稼動を維持しています。九州から見ますと東京一極集中がますます加速しているように感じられます。アベノミクス効果も九州には届いていません。新政権の地方創生政策に期待したいところです。

もうひとつ九州の話題と言え、NHK大河ドラマの『軍師黒田官兵衛』がありました。官兵衛の軍師ぶりをご覧になった方も多いかと思いますが、九州のあちこちにその存在を示す史跡が残っています。小生の住んでいるところも黒田藩の槍道場の跡地という碑があります。また、不勉強ながら福岡という地名が官兵衛のふるさと播州から来ているということも始めて知りました。

後年官兵衛は如水と名前を変えて出家しますが、なぜ如水という号にしたのかという説のひとつに老子の『上善は水の如し』から取ったという説があります。上善は水の如し、水はよく万物を利して争わず、衆人の悪む所に居る。

水のように生きることは大変難しいことだと思いますが、今のような激動の時代には変化に対応し、水のようにしなやかに強く対応していくことが大切なことだと思います。

会員皆さんと共に水の如く変化に対応して参りたいと思います。
危ぶむなかれ、行けば分かるさ。

本年が皆様にとって実り多い年になりますよう祈念して新年のご挨拶とさせて頂きます。

(豊鋼材工業㈱・社長)